冬季における労働災害の発生概況

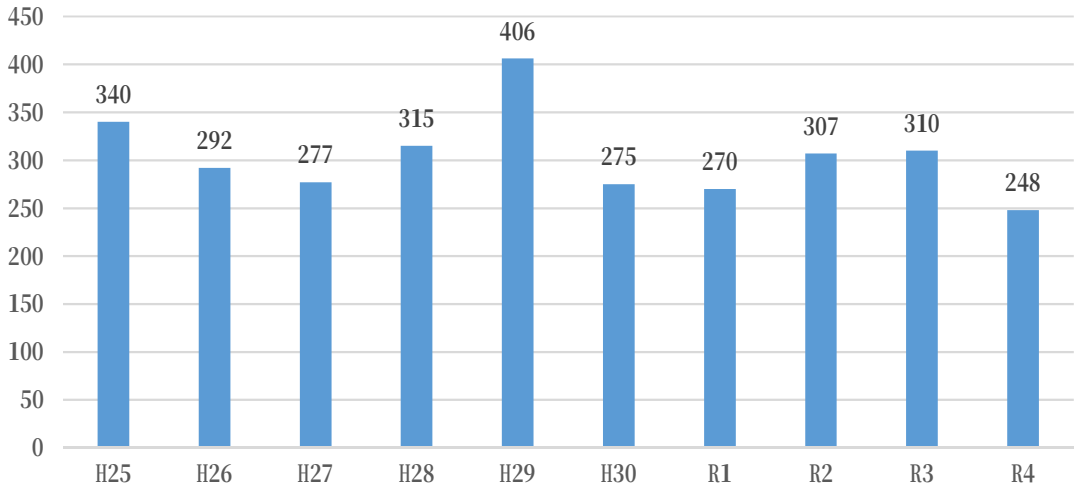
富　山　労　働　局
令 和 ５ 年 １ １ 月

１．冬季における死傷者の推移

過去 10 年の冬季（毎年 12 月～翌年２月。以下同じ。）における労働災害の死傷者数（休業４日以上。死亡者を含む。以下同じ。）を集計したところ、次図のとおりとなった。

平成 25 年から平成 27 年にかけて減少傾向が続いていたが、平成 29 年の冬季には前年より大幅増加となる 406 人が死傷した。令和２年から増加傾向が続いたが、令和４年は過去 10 年の中で最小の 248 人（うち新型コロナウイルス感染症によるもの除く）となった。

冬季における労働災害死傷者数（過去10年、各年12月～翌年2月）

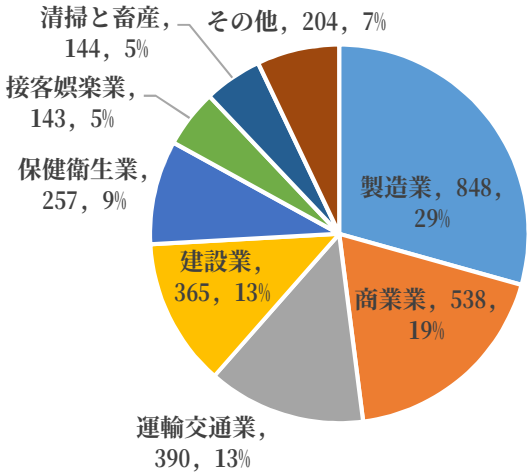


２．業種別労働災害発生状況

過去 10 年の冬季における労働災害の死傷者数を業種別に集計したところ、次図のとおりとなった。

最多の製造業で 848 人（29%）、次いで商業 538 人（19%）、保健衛生業 257 人（9%）運輸交通業 390 人（13%）などとなった。

冬季における業種別労働災害死傷者数（過去10年、12月～2月）



参考データ：富山県内就業者数

総数	547,577 人
うち製造業	135,575 人
卸売業、小売業	81,140 人
運輸業、郵便業	25,056 人
建設業	46,160 人
医療、福祉	73,148 人
生活関連サービス業、娯楽業	18,250 人
サービス業（清掃・と畜業含む。）	33,334 人

（令和２年国勢調査より引用）

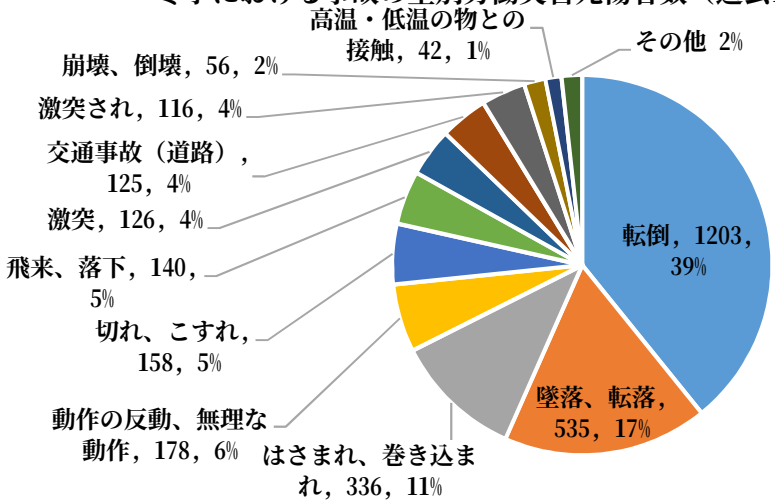
３． 事故の型別労働災害発生状況

過去 10 年の冬季における労働災害の死傷者数を事故の型別に集計したところ、次図のとおりとなった。

最多は、転倒災害の 1203 人（39%）であり、他の型よりも圧倒的に多い。次いで墜落、転落の 535 人（17%）、はさまれ、巻き込まれの 336 人（11%）などとなったほか、交通事故（道路）も 125 人（4%）と一定割合を示している。

北陸特有の災害としての、屋根除雪中の墜落、転落は、「墜落、転落」に含まれ、除雪機械による災害は「はさまれ、巻き込まれ」に含まれる。

冬季における事故の型別労働災害死傷者数（過去10年、12月～2月）



４． 過去５年における冬季環境を要因とした死亡災害

過去５年における労働災害による死亡災害のうち、冬季環境を要因とするものを下表に示す。

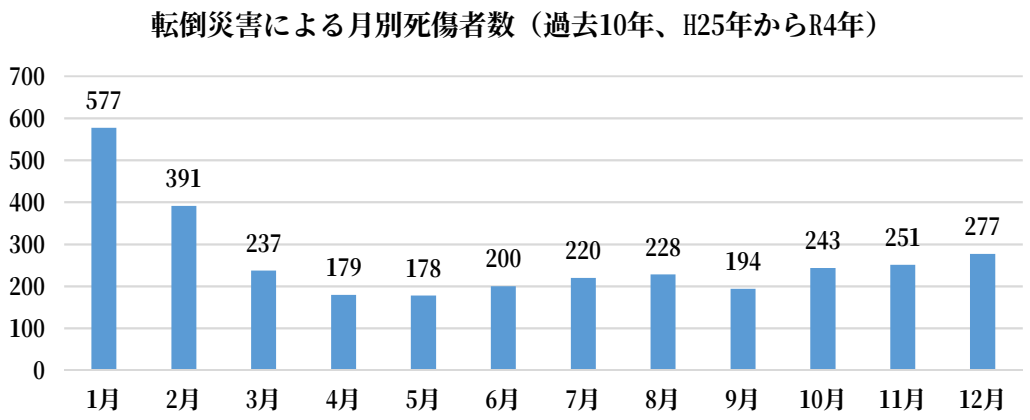
	発生時期	業種	年代	経験年数	災　害　発　生　状　況
1	平成 30 年１月	建築設備工事業	40 歳代	４年	被災者が運転する車が、対向車線にはみ出し、対向車線を走行していたトラックと衝突し死亡した。
2	平成 30 年 1 月	自動車・同付属品製造業	60 歳代	28 年	積雪により車の運行ができなくなった事業場駐車場において、夜勤明けの帰宅のため駐車場の除雪を待っていた被災者が、午後 2 時過ぎ、マフラーが雪に埋りエンジンがかかったままの自家用車の車内においてぐったりしているところを発見され、一酸化中毒により死亡した。
3	平成 30 年 2 月	その他の精密機械器具製造業	40 歳代	４年	バケット装着のフォークリフトを使用して事業場に隣接する農道において除雪作業を行っていた被災者が、路肩から約４メートル下の用水にフォークリフトごと転落し、フォークリフトの下敷きとなり死亡した。
4	令和３年１月	新聞配達業	70 歳代	42 年	早朝より新聞配達を行っていた際にガソリンスタンド構内を通行していたところ、構内の積雪した箇所から隣接する用水路（幅 2m、高さ 2m、水深 20 ㎝）に転落し、その後、約 200m離れた箇所で溺死した状態で発見されたもの。当日、約 90 ㎝の積雪があった。

５． 転倒による労働災害発生状況の詳細

（１）月別発生状況

過去 10 年間における富山県内の転倒災害を発生月別に集計したところ、次図のとおりとなった。

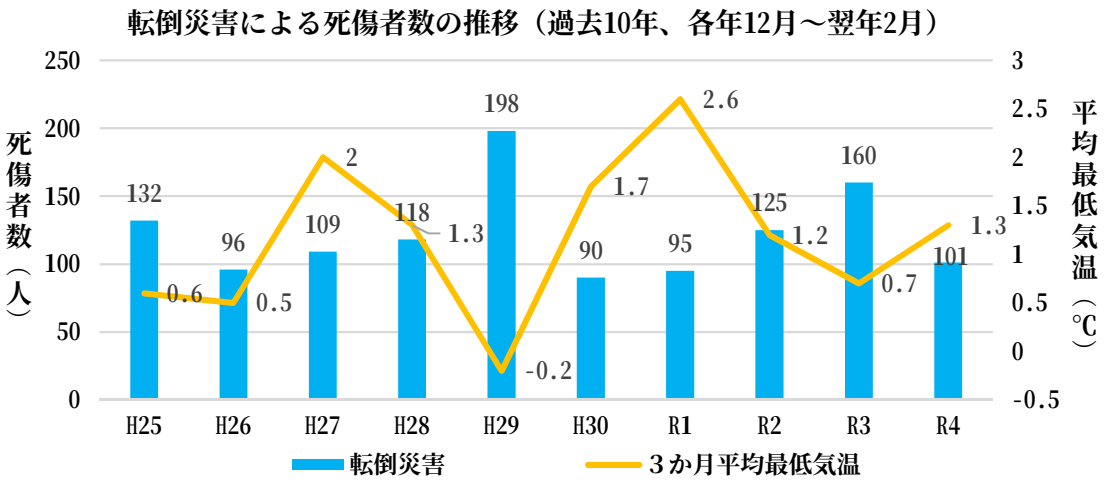
最多は 1 月の 577 人、次いで２月の 391 人、12 月の 277 人となっており、12 月～２月に転倒災害が多発する傾向にあることが認められる。



（２）過去 10 年における死傷者数の推移

過去 10 年の冬季における転倒災害の死傷者数の推移を集計したところ、次図のとおりとなった。

過去 10 年の中で平均最低気温が最も低かった平成 29 年には 198 人となった。令和元年から令和３年にかけて、転倒災害が増加し、令和３年には 160 人となった。令和４年は、令和３年に比べ転倒災害が減少した。同図において期間中の転倒災害の件数と平均最低気温を示したが、概ね平均最低気温が低くなれば、転倒災害が増加している。（気象情報は気象庁ホームページより引用）



（３）業種別発生状況

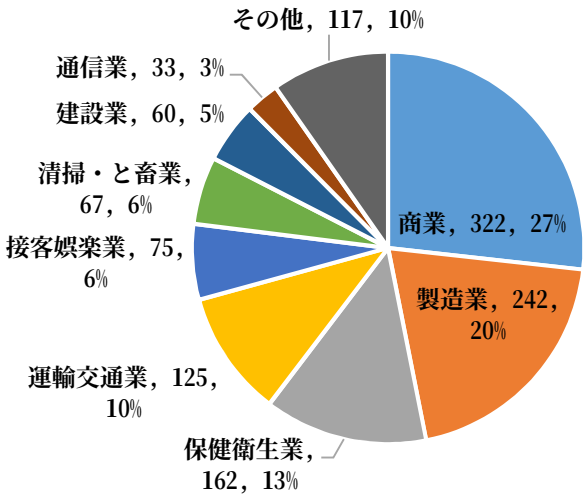
過去 10 年の冬季における転倒災害による死傷者数を被災者の業種別に集計したところ、次図のとおりとなった。

最多は商業の 332 人（27%）、次いで製造業 242 人（20%）、保健衛生業 162 人

（13%）となり、冬季の労働災害による全死傷者数とは異なる傾向を示した。

冬季における全死傷者数では、商業が２番目に、保健衛生業が３番目に多かったが、転倒災害に限れば、商業が１番目に、保健衛生業が３番目に多い業種となった。

転倒災害の業種別労働災害死傷者数（過去10年、12月～2月）



参考データ：富山県内就業者数

総数	547,577 人
うち製造業	135,575 人
卸売業、小売業	81,140 人
運輸業、郵便業	25,056 人
建設業	46,160 人
医療、福祉	73,148 人
生活関連サービス業、娯楽業	18,250 人
サービス業（清掃・と畜業含む。）	33,334 人

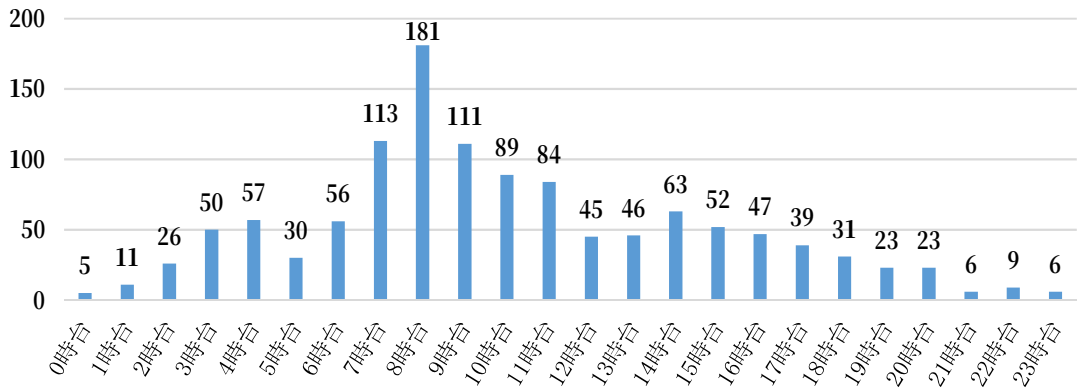
（令和２年国勢調査より引用）

（４）時間帯別発生状況

過去 10 年の冬季における転倒災害を発生時間帯別に集計したところ、次図のとおりとなった。

最多は午前８時台の 181 人、次いで午前７時台の 113 人、午前９時台が 111 人、午前 10 時台の 89 人、午前 11 時台の 84 人などとなった。12 時台になれば他の時間帯と概ね同人数となっていることから、午前７時～午前 11 時までの間に転倒災害が多発している傾向がみられる。

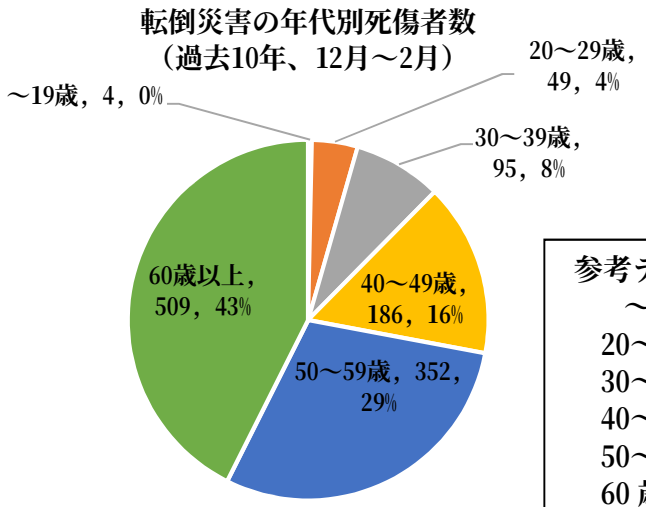
転倒災害による発生時間帯別死傷者数（過去10年、12月～２月）



（５）年代別発生状況

過去 10 年の冬季における転倒災害死傷者数を被災者の年代別に集計したところ、次図のとおりとなった。

最多は 60 歳以上の 509 人（43%）、次いで 50～59 歳の 352 人（29%）となった。50 歳以上の被災者が 7 割超を占めている。

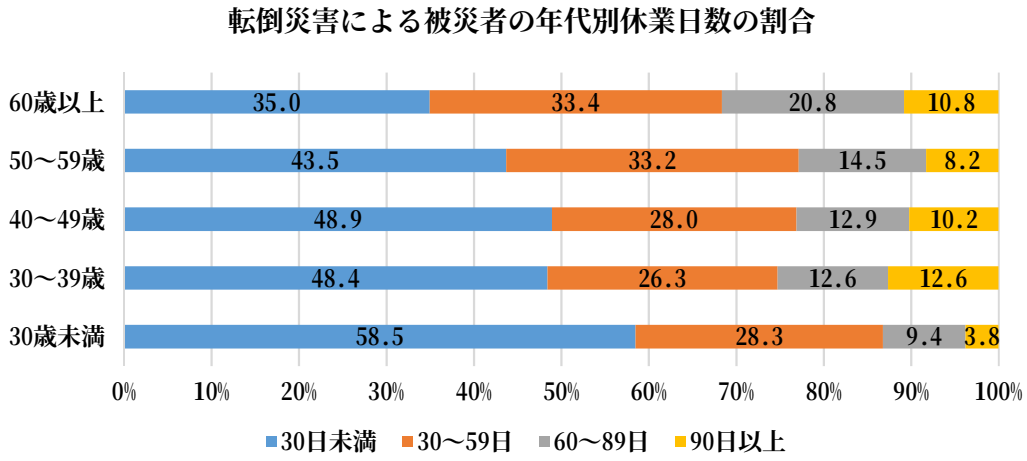


参考データ：富山県内就業者数

～19 歳	5,598 人
20～29 歳	67,230 人
30～39 歳	85,240 人
40～49 歳	127,210 人
50～59 歳	110,457 人
60 歳以上	133,226 人

（令和２年国勢調査より引用）

（６）転倒災害による被災者の年代別休業日数

過去 10 年の冬季における転倒災害死傷者について、被災者の年代別、休業日数別に集計したところ、次図のとおりとなった。

30 歳未満の被災者では、その 58.5%が休業 30 日未満で業務に復帰しているが、60 歳以上の被災者では 35%にとどまっており、休業 60 日以上の被災者の割合が 30 歳未満の２倍以上となっている。